



市民病院

# ハナちゃん通信

問合せ  
市民病院管理課  
☎(48)5050

## 9月はがん征圧月間です

**知ることはきっと「安心」につながります。この機会に  
がんと向き合ってみませんか。**

がんの早期発見や早期治療、生活習慣の改善により、がん撲滅を目指している日本対がん協会は、昭和35年から毎年9月を「がん征圧月間」と定め、がんとその予防について正しい知識の普及と早期発見・早期治療のために取組みを行っています。

市民病院でも、がん征圧月間の関連行事として、毎年9月にイベントを実施しています。昨年度は「大切な人を支えるために、あなた自身を大切に」をテーマに身体測定や骨密度測定、医師による公開講座、ウィッグの紹介、がんとのかき合い方について一緒に考えるコーナーなどがありました。

今年度は、9月21日(金)9時～12時に開催します。主な内容として、歯科医師による公開講座「お口のがん、口内炎が2週間治らなかつたら要注意!!」と口腔内チェック、医師による医療相談、乳がんの触診モデルを用いた乳がんの自己チェック方法の紹介、薬剤師による薬の相談、介護についての相談会、健康チェックコーナーなどを予定しています。

予約や参加費は不要ですので、たくさんのご参加をお待ちしています。



## 碧南の歴史へのいざない

問合せ  
文化財課内市史資料  
調査室 ☎(41)4566

### No. 51 大浜陣屋村々の発展(1)

史資料には、水野忠友が「大浜に領地をいただきたい」と將軍徳川家治や側用人田沼意次をお願いをしたという記録は残っていません。しかし、1769年に忠友がもらった大浜陣屋支配8ヶ村は、米の取れ高で換算すれば6千石ほどですが、商品問屋や港のある商品輸送の拠点となる村ばかりでした。

国内の物の輸送は、日清・日露戦争のころから鉄道輸送となりましたが、それまでの物の輸送は船が中心であり、港町は特に重要でした。大消費地の江戸に向けて瓦、木綿、酒、みそ、みりん、塩、鋳物などの生産をはじめたばかりの陣屋支配村の人々にとっては、大きく成長できるチャンスとなりました。

意次や忠友は、貨幣で商品売り買いする商品経済の時代となったことをいち早く見通した経済の専門家です。彼らは、流通を担う商人に対して課税し、幕府財政の立て直しを進めました。

大浜藩の領国経営は、水野家家臣と新たに召し抱えられた経済に詳しい武士に任せられました。忠友は「地方巧者」と呼ばれる財政運営に強い役人を陣屋勤めとして大浜へ送り込み、村に住む農民身分のまま商業活動をはじめた人々（在郷商人）を保護する代わりに、御用金という税金を課して徴収しました。1768年、大浜藩立ち上げと同時に財務を担当した役人に五十川武左衛門がいました。「駿藩仕録」という文書の五十川の欄には、「着任から7年後の3月に陣屋支配村から御用金2,400両を徴収し、殿様からおほめをいただいた」とあります。その3年後、五十川は陣屋の手代から江戸勘定奉行へ出世しました。



△大浜陣屋表門が明治時代に移設されたといわれる専修坊（高浜市）の山門